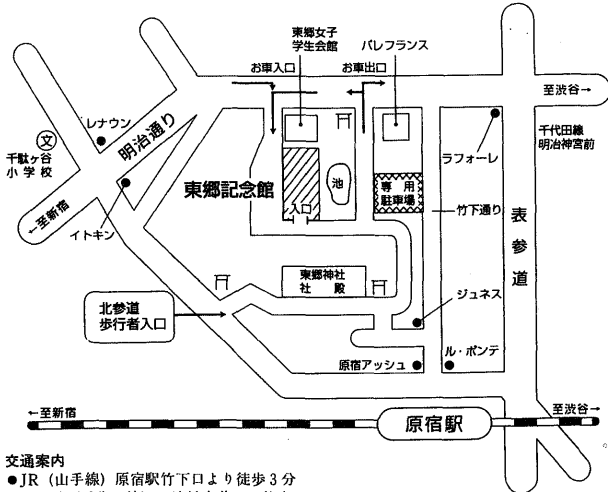


在京白聖会 總會のお知らせ

東郷記念館案内図

〒150 東京都渋谷区神宮前1-5-3 TEL03(3403)1431(代)



交通案内
 ●JR (山手線) 原宿駅下口より徒歩3分
 ●地下鉄 (千代田線) 明治神宮前より徒歩3分
 ●首都高速を利用される方は池尻 (3号線) 外苑 (4号線) が便利です。
 ※日・祝日は、竹下通り混雑しておりますので北参道入口をご利用下さい。

日時：平成9年5月13日(火) 午後6時～8時30分
 場所：原宿 東郷記念館 TEL：3403-1431(地図参照)
 会費：10,000円(年会費2,000円を含む)

このたび第28回在京白聖会総会を開催する事となりました。皆様お誘い合わせの上、是非お出かけ下さい。
 ご出席下さる方、住所・勤務先・電話番号等の変更のある方は、同封の葉書でお知らせ下さい。欠席の方はお手数でも年会費二、〇〇〇円を同封の振込用紙で、お振込み戴きます様お願い申し上げます。
 在京白聖会会長 及川昭伍

在京白聖会報

第2号
 平成9年3月30日

発行 在京白聖会

東京都港区虎ノ門一丁目十六番八号
 飯島ビル202号

星野健秀法律事務所内

TEL 03(35506)8844
 FAX 03(35503)7854

盛岡弁で語りあえる場所、それが在京白聖会です。あそこに行けば自分が取戻せる、素直な自分が発見出来る、何か安心出来る、それが旧制盛岡中学、盛岡一高で学んだ卒業生の集う所なのです。

上京してから早くも30有余年、70年安保、学園紛争、新宿事件等、その中の学生生活。皆、金がなかったけど、よく酒も飲みました。大東京にあって、自己を主張し、組織、地域の一員として自己を確率しつつ、無器用に生きてきた、戦後生れの我々白聖40会が今年の幹事役をさせていただきます。

今年、盛岡(不来方)城、築城四〇〇年祭にあたるそうです。京都では京都遷都二二〇〇年記念として、清水寺にアテルイとモレの碑が建立され坂上田村磨呂との手打ち式が行われたと聞いております。また盛岡市の東京事務所も開設され、その中に、盛岡ふるさと会

が発足し盛岡との関係がより緊密になっていくそうです。盛岡に縁のある者として嬉しい限りです。

尚、当日は宮沢賢治の詩の朗読、歌唱、恩師の先生方のご招待を計画しております。また盛岡の銘酒を飲んで戴ける様準備しています。

なつかしい盛岡の雰囲気を楽しんで下さい。皆さんの沢山のご参加をお待ちしております。

マンツ、オデンセ!! そしてウダツコ歌って大いに楽しみましょう。
 本年幹事
 在京白聖会 昭和40年卒業生

平成八年度のあゆみ

- 八四九 常任幹事会・年次幹事会。
- 八五十三 第27回在京白聖会総会。
- 八七十九 常任幹事会・年次幹事会。
- 八十二四 在京白聖会会報を創刊。
- 八十二一年次幹事会。
- 九三十 常任幹事会。



八年度総会、空前の大盛況

年次大会担当常任幹事 (昭和三九年卒) 田野成智

『岩手県』と言うときは潜在意識的には多少委縮していた自分が、『盛岡』『岩手山』或いは『北上川』と言うときは、胸中に望郷の疼きを感じつつ、『余所には絶対無い素晴らしきものに所属している』といったように、一面誇らしげにしている自分が感じられます。

ましてや『盛岡一高』と言うときの自分は、もう完全に舞い上がっております。そこには永い伝統



に培われた校風とやさしさに満ちた豊かな自然に囲まれた学舎がありました。

学業面の優秀さもさることながら、実に多くの素晴らしい友との出会い、或いは初めて気付いた異性への恋慕の情など、かけがえない青春の三年間があったからだと思います。

年に一度これらの思い出をリフレッシュし、『盛一ソサイアティ』の重厚さを再認識できる会、それが在京白聖会だと思えます。

本年は我々三十九年卒業者が総会の企画・進行の大役にあたらせて頂きました。昭和二十年頃の生まれである私たちは、戦後民主主義と共に生きてまいりました。そのような背景もあり平等を欠くことは避けたいとの考えから、約二千八百名の会員の方全てに案内状を差し出すことといたしました。その結果三百五十名にもおよぶ多数のご出席を頂くことができました。

本年は宮沢賢治先輩の生誕百周年にあたり全国各地で色々な企画や催事が執り行なわれておりまして、今回は白聖の伝統の主流『忠実自強』『質実剛健』『文武両道』を少し離れて『白聖的人間味』の表現に重点をおいて演出してみました。

「さんさ踊り」や「八幡神社の音頭上げ」のアトラクションは好評を頂きました。殊に音頭上げて会場で「うおー・うおー」と鬨の聲が上がったのには驚きました。閉会後出口でおほめの言葉を沢山頂き感激致しました。誠に有難うございます。今は亡き先輩「工藤祐正」元世話人が平成二年の白聖通信に寄稿され、そのなかで在京白聖会の意義を次のように述べておられました。

『都会生活の中で利害を忘れて自由に語り合える会の仲間が居るということはなんとも有り難いことであり、貴重な財産である。この財産を得る機会を与えてくれた親



にたいして改めて感謝せざるを得ない。と……

先輩諸兄の努力により誕生し育まれてきたこの在京白聖会に対して心から感謝し、将来に向かって益々大きな広がりとなるように祈っております。本年も会場のお世話など全面的にご高配を賜りました松橋先輩には心から感謝申し上げます。有難うございました。

発行 在京白聖会

東京都港区虎ノ門一丁目十六番八号 飯島ビル202号

星野健秀法律事務所内

TEL 03(35503)6789
FAX 03(35503)7854

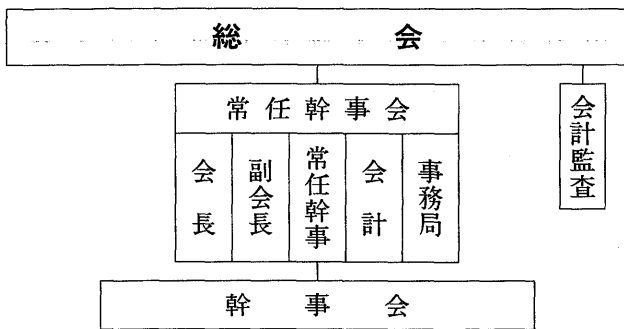
新しい会則と体制のあらまし

平成七年七月に、組織化に対応した新たな在京白聖会のあり方を検討すべく「改革検討委員会」が設置されました。委員会での議論の結果、①会長制を基本とする新会則②組織拡大と財政基盤の確立対策を幹事会に諮問し、了承を得、総会の場で可決しました。新会則の骨子は次のとおりです。

- 一、複数代表制から会長制へ変更
- 二、執行機関としての常任幹事会を新設
- 三、事務局から会計を分離

これに伴う組織機構は図のようになります。また、平成八年度の常任幹事会役員は、名簿のとおり総会で承認されました。

在京白聖会組織図



平成8年度 在京白聖会常任幹事会

役職	氏名	卒業年次
会長	及川 昭伍	昭25卒
副会長	大平 洋司	昭26卒
	外山 浩子	昭32卒
世代表	八重畑 達男	昭18卒
	松橋 輝男	昭25卒
	春山 攻一郎	昭37卒
	白石 源次郎	昭41卒
	日向 裕司	昭54卒
	巽岩 玲子	昭60卒
前年度年次大会代表	荒木田 修	昭38卒
当年度 "	野田 成智	昭39卒
次年度 "	戸澤 聡	昭40卒
会計	岩瀬佐千世	昭48卒
事務局長	星野 健秀	昭43卒
事務局次長	岩澤 新治	昭45卒

「啄木と賢治」のロマンにふれて

盛岡で白聖同窓会総会を開催

去る十月二十日、盛岡のニューウィングホテルで白聖同窓会百十六周年総会が開かれました。総会では、平成七年度の活動報告の他に事業企画委員会での検討状況が紹介されました。創立百二十周年にむけて、事業の見直しと財政の改善策を検討している模様です。

つづいて、かつて盛岡一高で教鞭をとった盛岡大学の遊座昭吾教授より、「啄木と賢治」の記念講演がありました。若き生命を燃焼し尽した

工藤事務所での在京白聖会

ふるさとのなまりをなつかしんで上野駅に立った啄木のように、工藤事務所に行けば盛岡の雰囲気を感じた。そこには盛中の先輩、一高の後輩が工藤先輩を囲んで談笑している。

「おおよぎきた、まあ一杯やれ」先輩の勧めで挨拶もそこそこに酒盛りの輪にいれてもらう。飲むほどに酔うほどに、応援団長になった工藤先輩がわれわれ後輩に喝を入れる。事務所の中は一瞬静まり、あの工藤節がはじまると、かつて

二人の文学を育んだ白聖校での風土と人脈。時代を超えて人々の共感を得てやまない人間と宇宙の真理に迫る詩情。稀有な文学者を先輩として仰ぐ白聖人の誇りを参加した約二百名の同窓生が感じました。感動の講演をうけた懇親会では、在京白聖会事務局の方から東京での活動ぶりを報告しました。会場では、野球部の秋の活躍ぶり（県大会優勝）と来年への期待が酒宴の話題になっていました。

応援歌練習をした盛中の講堂にいる気分になる。校歌がうたわれるころは、みんなの目が輝きだれもが若々しくみえ、時空を越えた一体感にしばしひたる。伝統のあるすばらしい高校に学び、良き同窓にめぐりあえたことに喜びを感じるときでもある。再開を約して帰宅するときまでその余韻はまだ残っていた。今は亡き工藤先輩に衷心より感謝し在京白聖会を大切にしていきたい。

副会長

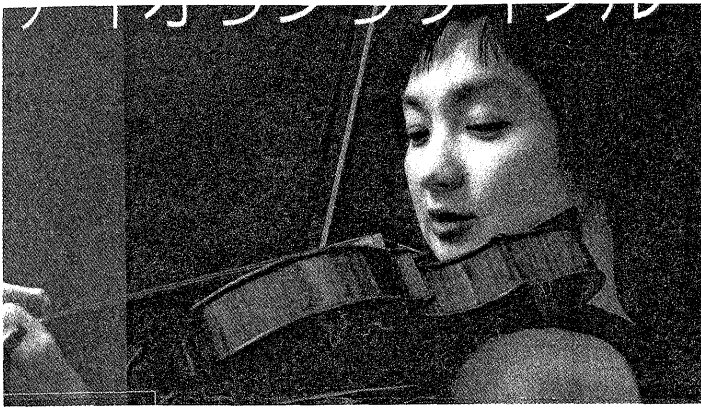
大平洋司(昭和二十六年卒)

上野の森にソナタのしらべ

原田智子ヴァイオリンリサイタル

年開けて間もない一月八日、上野の東京文化会館で、白聖の同窓である原田智子さん(昭58卒)のヴァイオリンリサイタルが開演されました。

ベートーヴェンのソナタを中心



に4プログラム。華奢な体からは信じられないほどの力強く弾かれるヴァイオリンは、奏者と一体となり、私たちの心の琴線をふるわせました。

原田さんは、東京芸大の大学院

常勝 送球部

小田島雅也(昭和二十八年卒)

例年五月十三日は在京白聖会が開かれる日である。'95年の総会には幹事の意気込みで、各運動部のスローガンが張り出され、標記はハンドボール部の応援旗の文字である。毎年学校からは教頭先生が上京され、現状報告が行われる。懇親会の席上、私は躊躇なく「ハンドボールの卒業生です」と挨拶をする。すると必ず「お蔭様で今年も一本優勝旗を飾ることが出来ました」とおっしゃられ、初対面にも係わらず話が弾むのである。

を卒業後、イギリス留学を経てか
ずかずのコンクールで入賞の荣誉
に輝いています。

ご本人は、今年はずいぶ郷土の盛
岡で演奏会を催したいと張り切っ
ています。盛岡一高からは、バリ
トン歌手の米谷毅彦さん(昭55卒)
など多数の音楽家が輩出してお
り、「白聖文化人」の伝統が脈々と
流れております。

記 岩澤新治(昭和四十五年卒)

その常勝を初めから手取り足取
り指導された箱崎先生の文部省体
育功労賞受賞祝賀会が昨年十二
月十三日に岩手県ハンドボール協
会の主催で盛岡で盛大に開催され
た。例えば昭和二十四年四月一
高に赴任された先生が職員室の前
に「新しいスポーツ、送球部新設、
入部歓迎」の大きなビラを張り出
したのが切っ掛けであった。以来
連戦連勝、高校総体34回優勝と、
まさに「常勝送球部」を築いた偉
大な監督であり、重鎮である。当
日は

数多くの教え子が祝福に駆けつけ
たのである。

帰京して年賀状を書くために、

昨年の賀状を整理していたところ
「何十年振りに会っても同じクラ
ブの飯を食った仲間はいいもん
だ! : 佐伯久雄」という二年先輩
の賀状を手にした。昨年九月に急
逝された部創立時代の先輩で、私
が入部の時からシゴイテくれた
「タンク」のニックネームを持つ
猛者からの賀状である。先輩は永
年中学校で教鞭の傍ら顧問として
ハンドボールの普及に力を注ぎ、
県のレベルアップに尽力された方
で、定年退職後もボランティアと
して近所の中学のコーチを勤め底
辺拡大に意欲を燃やした人である。
箱崎先生によると岩手県ハンドボ
ール界のレベルの高さは高校の指
導体制の整備が上げられるが、そ
れにも増して特筆すべきは中学の
指導体制の良さがあるからだと言
われる。

栄光の陰にこのように地道に底
辺を支える人達の努力があること
を忘れてはならない。これを後輩
に伝えることが私共の努めではな
いかと思う。